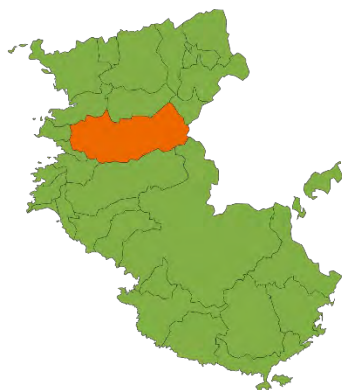


和歌山県有田郡有田川町

学生との協働による棚田保全・集落支援活動



【活動の基本情報】

参加学生数: 6 名

(1 年生: 1 名、2 年生: 6 名)

活動期間: 2011 年 7 月～

担当教員: 大浦由美

1. 活動実施の経緯

有田川町での第 19 回全国棚田(千枚田)サミット(2013 年度)開催決定をきっかけに、2010 年に県が企画した「棚田モニターツアー」に当時の観光学部生約 20 名が参加した。地域の農業者の高齢化とともに耕作放棄地が増加する当地の現状を目の当たりにして、学生側から「棚田保全ボランティア」のアイデアが出されたことをきっかけに、学内で棚田保全ボランティアへの参加者を募り、「棚田ふあむ」を結成。2011 年 7 月から活動を開始した。

2. 活動の内容

例年と同様に、田植え(5 月 26 日)、山椒収穫支援(7 月 13 日～15 日)、稲刈り(9 月 29 日)、草刈り(11 月 17 日)等の農作業支援を中心に、秋祭り支援(10 月 12 日～13 日)、地元交流会(12 月 22 日)、天神祭支援(1 月 19 日)などの集落活動支援や交流活動を実施した。また、活動報告誌「ふあむからあのね」の作成を再開し、沼地区住民に配布することができた。

3. 活動を通じて

今年度は、初回の田植えの際にミニ交流会を開催したことで、参加学生と地元農家とのコミュニケーションがスムーズになり、以降の活動にも良い影響がみられた。また、しばらく途絶えていた宿泊を伴う活動も再開することができた。現地で交流する機会が増えたことで、農作業支援を行うだけでなく、地域での暮らしの現状や、農業への思いを知り、今後の活動の方向性についてより深く考えることに繋がっていることが、参加学生のレポートから読み取れた。

次年度は、地元交流会でのワークショップの際に地域住民から出された「郷土料理」の継承に関する活動など、新たな活動にも挑戦したい。

4. 成果ポスター

有田川町LPP

棚田ふあむ

私たち有田川町LPPは、地域の方々と学生との協働によって、棚田の保全及びその基盤となる集落の活性化に向けた取り組みを継続的に支援することを目的として活動しています。有田川町沼地区の棚田は、棚田の枚数や面積が有田川町のなかでも随一の規模を誇る広大な棚田です。しかしながら、高齢化や人口減少によりその維持が難しくなっています。そこで、当プログラムでは、学生がその棚田の一ヶ所をお借りして、田植えから稲刈り、精米作業までの一連の流れを担い、棚田の景観の維持に貢献しています。それに加え、棚田を支える地域住民の方々の生活や、棚田に根づく文化の継承に対する支援も行っています。



2024年度の活動

5月 田植え・交流会
棚田の田植えと交流会を行いました。丁寧に稲えんを教えもらい、豊作を願って予備えで苗を植えました。

7月 山椒収穫支援
収穫は地道ですが、達成感のある作業でした。引分け作業を見学し、多くの努力を要することを実感しました。

9月 稲刈り支援
5月に植えた稲の収穫を行いました。米作の一連の流れを経験し、お米を作ることの人交さを実感しました。

10月 秋祭り支援
一泊二日で餅投げや祭り当日の準備など、秋祭りの支援を行いました。その合間には精米作業も行いました。

11月 草刈り・獣害柵の点検
棚田の草刈りと、獣害柵の点検を行いました。今後の棚田の維持のため、地域の方々と共に頑張りました。

12月 交流会
1年間の活動の振り返りやこれからの沼地区の在り方について話し合いました。食事会も行い、交流を深めました。

1月 天神祭支援
餅投げ等の天神祭の支援を行いました。その後は交流会を行い、親睦を深めました。

●今年度の総括

今年度は、高齢化や人口減少により、支援の重要性が高まっていることを実感した年でした。このような状況下で、昨年度よりも活動日数が増加し、地域の方々のお力になれたことは今年度の成果の一つです。また、今年度はコロナ以降休刊していた地域住民向けの活動報告誌である「ふあむからあのね」を復刊しました。これにより、毎日の活動には欠かせない地域住民の方々にも活動内容を知らせてもらうとともに、学生と地域の方々との信頼関係を構築できたことも成果の一つです。

●来年度に向けて

12月にワークショップを行った際に、地域の食文化を学びたいという意見があったため、それに関するイベントを開催することを検討しています。また来年度は、地域外への広報活動にも力を入れていきたいと考えています。

4. 2024 年度合同活動報告会の実施

2) 発表の実施報告

本会では、各報告時間に2プログラムずつ、別のエリアで発表を行った。当日の振り返りと報告のため、後日、各プログラムの発表の様子や、アンケートフォームで回収したご意見・ご質問に対する回答をまとめた報告書を参加学生が作成した。

和歌山県有田郡有田川町

テーマ: 学生との協働による棚田保全・集落支援活動

● 報告について

今年度の活動について振り返った。2024 年5月から 2025 年 1 月までの各活動を紹介し、そこでの成果や学びについてコメントした。発表の終わりには、活動日数の増加と地域住民向けの活動報告誌である「ふあむからあのね」の復刊が今年度の成果であると総括し、来年度はワークショップにあった意見をもとに、地域の食文化に関する勉強会を開くことや地域外への広報活動に力を入れることを目標とすると締め括った。

● 質疑応答

Q. 地域の方々にとって有田川町 LPP のメンバーはどのような役割を担っていると思うか。

A. 日々の活動や「ふあむからあのね」での感想の共有を通して、獣害対策の疲弊などで失われつつある地域の方々の農業に対する誇りを取り戻すという役割を担っているように思う。また余談ではあるが、地域の方々のなかには、LPP メンバー以外の面識のない地域外の人たちが集落に来ることに対して、あまり前向きでない方がいることが分かった。そのため、今後は地域の方々との合意形成にも注力しなければならないと感じている。